

# 「時代の変化を、進化の力に」 市制100周年を見据えて

第6次直方市総合計画（基本計画）を改訂しました



▲詳細は市ホームページ

令和3年4月からスタートした、10年計画である「第6次直方市総合計画」では、まちづくりの最上位計画として、「未来へつなぐ」と「まち・自然」を都市将来像に掲げ、「ひと」「まち」「自然」のそれぞれの観点から都市将来像の実現に向けて、市民の皆さまと行政が協働し、まちづくりを進めてまいりました。

しかし、この間発生した新型コロナウイルス感染症により、社会経済は大きな打撃を受け、本市もその対応に追われました。ライフスタイルの変化はもとより少子化を加速させ、人口減少は予想以上に早く進んでいます。また、不安定な国際情勢の下、円安やエネルギー価格・食料品を中心とした物価高が市民生活と経済活動に深刻な影響を与えています。さらに、令和6年1月の能登半島地震や、気候変動の影響を受けた線状降水帯の頻発等、災害が激甚化する中、防災減災と国土強靱化の重要性が改めて高まる等、社会経済情勢が加速度的に変化しています。加えて、ICT（情報通信技術）を中心に技術革新は目覚

ましく、最近ではAIの進化により私たちの働き方や生活をも変えようとしています。このようなVUCA（ブーカ…先行き不透明で予測困難な状態）と言われる社会においても、市民の皆さまにこのまちに住み続けたいと思っただけの持続可能なまちづくりを進めていくため、策定から5年目を迎える令和7年度に、総合計画の中間見直しを行いました。

中間見直しにあたっては、令和6年に実施した「市民意識調査」の結果を分析し、総合計画の基本計画に掲げる施策の見直しを行いました。引き続き「SDGs（持続可能な開発目標）」を市政の羅針盤としながら、デジタル技術の活用、官民連携や広域連携の推進、激甚化する自然災害に強い地域づくりを加速させます。また、施策の推進においては、新たにオープンした保健福祉センター「ゆずりあ」を拠点とした健康づくりや新産業団地造成事業による産業のさらなる発展、「花のまち」「蒸気機関車のまち」のブランドの確立と

いった新たな取り組みとともに、市民一人ひとりが心の豊かさと直方に住む喜びを実感できる「ウェルビーイング（幸福感）」の向上を最優先課題の一つとして掲げ、心の満足度も重視しながら将来に向けたまちづくりに取り組んでまいります。

5年後の令和13年には、いよいよ市制100周年という大きな節目を迎えます。今日私たちが受け継いできた豊かさを、より魅力的な形で次の世代へとつなぐため、この改訂された総合計画に基づき、市民の皆さまとともに力を合わせて様々な施策に取り組みまいります。市民の皆さまをはじめ関係各位の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

直方市長 大塚進弘



## 今回の基本計画を見直した主なポイント

### 健康・福祉分野の充実

- ▶ 保健福祉センター「ゆずりあ」のオープン
- ▶ 働く世代のウェルビーイング向上
- ▶ 障がい者への合理的配慮の提供と理解促進

### 教育・文化分野の新展開

- ▶ 文化芸術振興条例の制定
- ▶ ユメニティのおがた・図書館の大規模改修
- ▶ SL広場の整備・活用

### 安全・安心対策の強化

- ▶ 能登半島地震を踏まえた災害対策
- ▶ 機能別消防団の発足

### 都市間連携

- ▶ 産業振興や新幹線新駅設置など広域連携



▲直方・鞍手新産業団地の開発区域

### 水環境の保全

- ▶ 衛星による漏水調査の実施
- ▶ 老朽管の効率的な整備
- ▶ 広域連携や共同化

### 循環型社会の推進

- ▶ 民間企業との連携による取り組み
- ▶ 脱炭素社会の構築



▲DX人材育成研修

ひと

まち

自然

行財政



▲完成した保健福祉センター「ゆずりあ」

### 雇用創出・産業支援

- ▶ 市内事業者の人材確保に資する支援
- ▶ 市内企業のデジタル技術の導入や活用の支援
- ▶ 産業の成長を支える人材の育成

### 新産業の集積促進

- ▶ 稼ぐ力の強化、市民所得の向上
- ▶ 新産業団地への成長産業の誘致

### 観光・交流拠点の充実

- ▶ 花のまちのおがた、SLのまちのおがた
- ▶ 河川空間のオープン化

### 住環境の向上

- ▶ 空き家バンクの利活用
- ▶ コミュニティバス再編の検討



▲汚泥再生処理センターに設置された太陽光パネル

### 行政サービスの最適化

- ▶ 生成 AI 等の情報技術を活用

### 組織風土の改革

- ▶ コンプライアンス遵守の徹底
- ▶ 人材育成・組織改革